

設立 平成24年 5月15日
開塾 平成24年 9月 8日
発行 令和 7年 5月17日
(143号)

中之島二ユース

[事務局] 〒567-0861
茨木市東奈良2-7-10
人間学塾・中之島
事務局 古田修平
編集長 西村俊幸

父から教わったことは途轍もなく凄いことではなく、やる気さえあればできる身近な」とばかりです。イエロー・ハットに入つてまず習うことは、「トイレ掃除」以外に「段ボール縛り」があります。イエロー・ハットには、親父の考えた段ボールを四隅をきちんとそろえて縛る器具があります。それで縛ると決してバラバラになることはない。親父は回収する人のことを考えてその工夫をしたのです。

会社には配達会社により様々な多くの荷物も届きますが、到着を知らせる業者のインター ホンが鳴るとどうするか？まず会社の入り口

が、人に迷惑をかけることとを何とも思わなくなつてしまつたようです。だからこそ、親父は“心の荒みを取り除く”ということをお掃除を通して生涯やり続けました。今日も昼食の後始末を皆様にしていただきましたが、細かい決まり事があることに驚かれたかもしれません。もし皆が食い散らかしてしまふと、それを片づけるスタッフの心は荒むでしょう。しかし片づけ易く各々がちょっと分別するだけでそれは防げるのです。ゴミの出し方を見ればその人が解る、と言われますが、都内のある高級マンションにおけるゴミの出し方のなんと汚いことか。金持ちというのは、徳を積み重ねたからこそ富を得るのが従来の金持ちでしたが、先に金の遣い途を知らずに金を持つてしまうから、そのようなお粗



■トローバードの歌

「父 鍵山秀三郎より学んだ、後世に伝えること」
鍵山幸一郎先生
(四月度特別講義より)

を開錠、そして印鑑とお菓子を持つて業者さんが上がつてくる前にエレベータのところまで走る。そして扉が開いたら荷物を受け取り彼らにお菓子を渡し、その彼らの乗つて来をエレベータに自分も乗つて、業者さんを見送ります。そこに費やされる時間は何分もかかりません。しかしこれを実行し続けることで、目には見えなくとも大きく変わつてゆくものがあります。

■隣のおじさん

先般の親父のお別れ会にはたくさんの方がご遺方からもお越しになられ、「先生のお蔭で人生が変わつた」と言われておられました。人生が変わつたとはどういうことか。人間とはいろんな軸を持ち生きていますが、元来物事を判断するときには自分軸。親父に出会い人生が変わつたという方のお話を伺うと、どうやら自分軸から他人軸になつておられるのではないかと感じます。人間は誰しも日々困難との闘いです。そんなとき、自分一人の力で立ち向かうということはなかなかできずに挫折してしまいます。しかし自分が困難に見舞われたときに教訓を持っておれば、打ち勝つことができます。

実家の隣、住宅地に二つのゴミ集積場があります。そのうちの一つはきつちり整然としています。そこは常に一人のおじさんがゴミの整理をしているからです。親父はいつもその前の道を車で通勤していました。そしてそのおじさんを見かけると、窓を開けて声を掛けるのではなく、一旦車を停め、降りておじさんにお礼を言い、また車に乗つてました。それでも、応えるどころか一回たりとも振り向きもしない。そのような対応をされて、挨拶を続けられますか？普通は挫折するでしょ。ある日、このおじさんが亡くなられた。

先般の親父のお別れ会にはたくさんの方が「清方からもお越しになられ、「先生のお蔭で人生が変わった」と言られておられました。人生が変わったとはどういうことか。人間とはいろんな軸を持ち生きていますが、元来物事を判断するときには自分軸。親父に出会い人生が変わったという方々のお話を伺うと、どうやら自分軸から他人軸になっておられるのではないかと感じます。人間は誰しも日々困難との闘いです。そんなとき、自分一人の力で立ち向かうということはなかなかできずに挫折してしまうでしょう。しかし、自分が困難に見舞われたときに教訓を持つておけば、打ち勝つことができます。

自分本位、他人本位

自分の身につくこととは何か？それは行動に反映できるということです。

「気づく人になる」とは、口で言うのは簡単ですが、これは小さな一つ一つをやり続ける中でようやくなれるものです。

私自身がどういう生き方をしていくのかを考えるときには、「自分の行動は使命に基づいておれば、いかなる苦しいときでも乗り越えられる。そして二つ目は「悔いを残さぬ人生」。親父は病気をして複写はがきが書けなくなるまでは八万六千枚のはがきを書いてきました。体が悪くなり老人ホームに入つてからは「あのままはがきを書いていたら十万枚になつてたろうなあ」と悔しそうでした。

皆様がたには、自分本位ではなく他人本位となるきっかけを与えてくれる人が、身の回りには必ずいるのではと思ひます。

言つてはいることとやつてはいることが一致していることは大事なことです。口ではSDG、Sなどうたつても、行動が無ければ意味がない。ここ朴の森では、できるだけゴミを出さないためにコンポストを作っています。またおもてなしについても同様で、言つてはいることとやつてはいることに相違がないか？今皆さまが掛けでおられる椅子を並べるときも、タコ糸を伸ばして乱れぬよう配置しています。これが本当のおもてなしだと思うからです。

その後しばらくしてそのご家族が挨拶に我が家へ来られました。「うちの主人はぶつきらぼうですが『鍵山さんは俺みたいな奴に丁寧な挨拶をしてくれる』とにこにこしていましました」と聞かされます。これが教訓です。私自身、挨拶しても無視し続ける人に諦めず挨拶を続けることができたのは、この“教訓”的です。

『グループ討議』 鍵山幸一郎先生



- ◎ 能力より人柄
◎ 自分本位より他人本位

次の2つの言葉に多くの感動の声が寄せられました。

- ・自分は二の次
 - ・人柄が運命を切り拓く
 - ・次の人のことを考える

- ・自分本位から他人本位へ
・自分は二の次
・心の荒みをなくす

- ・人柄が運命を変える
 - ・気づく人になる
 - ・人を待たさない

- 自分本位。自分の次

- Aグループ
・自分本位より他人本位
・能力より人柄 ↑ 人柄が人生を切り拓く
・自分がいつも二の次



宿泊研修 (朴の森 萩市内)

宿泊研修に参加して 勉生 川村さゆり

山口県はとても素晴らしいところでした。

食べ物も美味しい、歴史上の素晴らしい人物が沢山出られる場所なので、なんとなく空気が違う気がしました。またゆっくりと訪れたいた所になりました。

今回初めて宿泊研修の全日程に参加させていたきましたが、貴重な体験でした。

吉田松陰が30歳で亡くなつたのに日本を救うほどの事を成し遂げていること：人間には神様みたいな力があるのですね！

それを思えば、たつた1年でも出来ることが私にも沢山あるとされました。自然体で頑張つてみたいですね。

春季宿泊研修に参加して 勉生 町田豊彦

令和七年四月十二日～十三日、山口県の朴の森（鍵山記念館）そして世界遺産（萩反射炉・松下村塾・萩城下町）へと幸運にも白駒妃登美先生が終始バスの中や現地で説明をしてくださり、参加者四十三名の思い出と深い学びとなりました。

初日の鍵山幸一郎先生は相談役が最後まで他者中心の人生で残された会社の在り方や個人の生き方の教訓をご子孫の視点で実話を通して語られました。後世に学びを伝える決意と「自分は二の次」の言葉で締められた感動の講演でした。

萩湾を一望する萩観光ホテルでは郷土料理に舌鼓を打ち、天然温泉と交流会を満喫しました。翌日は現地ならではの丁寧な案内の連続で「身はたとい武蔵野の野辺に朽ちぬとも留め置かまし大和魂」の辞世の句を残すなど、多くの英傑を育てた吉田松陰を中心に、国を思い明治維新を命に懸けて成し遂げた志士や遺産から日本人の魂に触れてることができました。ありがとうございました。



宿泊研修に参加して 勉生 松野若斗

鍵山幸一郎先生のご講義では「自分は二の次」という秀三郎先生の生き方に触れ、繋がりのあるあたかい社会のヒントをいただきました。実践は難しいですが、日々の小さな意識から始めたいです。

2日目はとにかく長州人の志に魂が震えた一日でした。激動の時代に日本を変えるために立ち上がった若者たちの志の高さに圧倒されました。歴史は志のリレー。ここまで受け継がれてきた松陰先生の志を繋いでいくことが我々の使命だとも感じました。もつと実践を積むことができるよう、人間学塾での学びに積極的に参加していきたいです。

大好きな地元でみなさんと一緒に勉強できて、大変充実した2日間を過ごさせていただきました。



宿泊研修に参加して 勉生 藤井優和

鍵山幸一郎先生の講義では「自分は二の次」という秀三郎先生の生き方に触れ、繋がりのあるあたかい社会のヒントをいただきました。実践は難しいですが、日々の小さな意識から始めたいです。

2日目はとにかく長州人の志に魂が震えた一日でした。激動の時代に日本を変えるために立ち上がった若者たちの志の高さに圧倒されました。歴史は志のリレー。ここまで受け継がれてきた松陰先生の志を繋いでいくことが我々の使命だとも感じました。もつと実践を積むことができるよう、人間学塾での学びに積極的に参加していきたいです。

大好きな地元でみなさんと一緒に勉強できて、大変充実した2日間を過ごさせていただきました。

寺田一清先生に導かれて(27)近藤宏枝

松陰先生は萩藩士の次男として生まれました。今期の「人間学塾・中之島」の春季宿泊研修地は、例年の関西圏から山口県萩市へ場を移しての研修となり、松陰先生の遺蹟を巡る旅に大きな学びを頂いたのでした。私は今回の旅に大きくなってしまった。私は今回旅を再読して、彼の地に思いを馳せ、「何度も胸を篤くしました。一文を記します。」安政六年(一八五九年)七月九日、松陰は幕府から帰宅して、『伝記シリーズ』の『吉田松陰』を書き上げた翌日の朝、伝馬町の刑場に引かれていました。(略)『留魂録』を書かれた。身はたとひ武蔵の野辺に朽ちて、大和魂の一詩を、次の詩と一緒に吟じました。「吾れ今は高らかに死す。死して君親に背かず。悠々たり」とともに、声を止め置かました。天の為に死す。天地の事は服装を正し、鑑照明神にあり「そして、松陰はまだ、先哲に真摯に眼を閉じました。」私達はまだ、先哲に真摯に眼を閉じました。森信三先生は「眞理は感動によつて授受される」と説かれています。

寺田一清先生が編集せられた『ものがたり伝記シリーズ21』全二十一巻は、平成十四年七月に登龍館の田中権子様のご尽力により発刊されました。寺田先生はそのあとがきにこう記されています。「森信三先生が、生涯かけてお説きになつた本旨のほどを思い直します時、その根本は「日本民族の教育再建」ではなかつたかと思われてなりません。とりわけ最晩年においての心願は、次代を背負う幼少年にむけ「感動ある力強い生き方の種まき」であり、少年少女のための「偉人伝記」の発行を企画なされました。ところが発願を果たされないで、その生涯を了えられました。」寺田先生は、森先生のこの切なる念いを叶えるべく二十一世紀に歩みを進めました。

訃報 元塾生の足立研治様（享年99歳）がご逝されました。謹んでお悔み申し上げます。合掌

オプショナルツアーやクルーズの寄港地ごとに計画されている。主な訪問地である南米、イースター島、パタゴニア、ブラジル、アルゼンチン、アフリカ、南アフリカ共和国、マダガスカル等初めての未知の訪問地がある。特に食事や長距離移動に対する不安が少なく、クルーズの快適さが魅力的。日本食へのこだわりもある中で、クルーズではより慣れ親しんだ食事が提供される可能性が高く、移動の労力や食事の心配をせずに目的地を楽しめる点が理想的。というわけで南極まで船旅を決断した。



なぜ南極

A man with a shaved head and a dark jacket stands on the deck of a ship, holding up a framed certificate. He is pointing towards the camera with his left hand. The ship's railing is visible behind him, and the vast ocean and a cloudy sky are in the background. The certificate has some text and a logo on it.

思想なか とさ す 子た
いでかな私う ら今ご松息か山編
ま つい自ごに回さ陰の °口集
す朴たま身ざ豊はれ神鍵凜研後
°の方せはいか 'た社山と修記
森もん 'まな白とや幸しにご参加された皆様。°いかがでし
や 'で今すひ駒思萩一た森秀。三郎先生のご
萩こたの研修は所用により参加が
様紙面や参加のように参加が
子を感じて頂けた方がの感き
ればと

第14期入塾説明会も開催します

【入塾体験募集】 参加費
4000円

大切なご友人を是非お誘いください。

※入塾体験に参加された方が、第14期に入塾された場合、塾費より当日の受講料は差し引きます。

◇講師 岩崎一郎先生

(脑科学者·医学博士)

「利他の心が脳を活性化する」

脳科学をビジネスに活用して全社員の脳が活性化し、最大限のパフォーマンスを引き出す組織づくり（集合知性）を支援する、研修・コンサルティングを提供中。

◇会場 大阪大学中之島センター 時間 令和7年6月14日(土) 13時

『人間学塾・中之島』次月案内